

<様式 1>

令和3年度 さいたま市立指扇中学校 自己評価書

校長 大河内 範一 印

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

「夢をもち、社会のために進んで学ぶ指扇の子どもたち」の育成をめざして

○やり抜く力で真の学力の育成（G R I T）○国際社会で活躍できる人材の育成（G L O B A L）○一人ひとりの成長を支え生涯学び続ける力の育成（G R O W T H）

- (1) 「よい学年、よい学級づくりの推進」(G R O W T H)→組織的な指導を展開し、生徒主体の教育活動を推進。満足感や所属感を実感できる集団の育成等。
- (2) 「よい授業の実践と学力向上」(G R I T)→生徒が生き生きと主体的に学習する授業のと、個に応じた指導の充実、特別支援教育の拡充、家庭学習の定着等。
- (3) 「信頼関係を基盤とした生徒指導の充実」(G L O B A L)→毅然とした指導の実践による規範意識の向上、集団の中で生きていくスキルの向上。いじめゼロを目指した積極的な生徒指導の組織的な展開等。
- (4) 「豊かな心と健やかな体の育成」(G R I T)→道徳の授業の充実。体験活動を通じての思いやりの心の育成。ボランティア活動の機会の拡充等。
- (5) 「安心・安全な教育環境の整備と充実」(G R O W T H)→積極的な教育相談・面談の組織的な展開。綺麗な学校づくり。緑化活動を柱に季節感のある学校づくり等。
- (6) 「開かれた学校づくりの推進」(G L O B A L)→情報の共有化、保護者の学校行事などへの参加、学校評価の学校経営への反映、積極的な交流による一貫性のある小中一貫教育

2 評価結果について

学校評価（生徒・保護者・地域）では全体的にはどの項目も高く評価されたが、主なものを以下挙げる。

・「授業は分かり易いか」との問いに対して、肯定的に考える生徒が年々増加し今年度は97%を超えており、指導方法の工夫改善の成果があったと考えられる。しかし、保護者については昨年度より少し増えたものの87%にとどまってしまっており、生徒と保護者の差が解消されるよう工夫に努める必要がある。また、「家で予習や復習をしていますか」との問いに対して、肯定的に答える生徒が69%とやや少なく、声をかけている保護者は80%であることから、家庭との連携を強化し家庭学習の定着を高めていくが課題と考えられる。

・その他、生徒の肯定的な考え方として、「学校は楽しいですか」94%、「先生方の指導を信頼できますか」98%、「悩みや困ったことを相談した時、親身になって応じてくれますか」98%、「先生はあなたのよさを理解し大切にしていますか」97%と1ポイントから2ポイント昨年以上に高い割合となっている。また、保護者の肯定的な考えとして「お子さんは楽しく学校生活を送っていますか」96%「学校のお子さんに対する指導について信頼できますか」98%「学校はお子さんを理解し、その良さを大切に伸ばそうとしていますか」98%と高い割合になっている。コロナ禍の中でより今まで以上に生徒や保護者に寄り添うという、日頃の取組みの成果が現れていると考えられる。

・「学校は地域や保護者の意見を受け止めて教育活動に取り組んでいますか」との問いに対して、肯定的に考える保護者が97%。地域の方々は85%（分からない10%）と高い理解を得ており、これまでの取組の成果が表れていると考えられる。

・「子どもの将来について話し合っていますか」との問いに対して、保護者の回答は昨年度82%から84%とわずかながら増えているが、自立しきれていない生徒の実態を考えると、学校と保護者の連携を強化し、さらに進路指導・キャリア教育に力を入れる取組みの必要性を感じる。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

本格導入となるG I G Aスクール構想に向け年間指導計画やシラバスを見直し、生徒が課題に向かい探究する力や価値観を互いに承認しあう感性を育むことを念頭に、全教科で「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。

また、日頃活用している「生活ノート（やりとり帳・自分ログ）」や休み時間のチャンス指導などから今まで以上に生徒に寄り添い、家庭との連携をさらに強化し、生徒の内面の部分と基礎学力向上のための家庭学習の定着をはかる。